

なな山だより

なな山緑地の会会報 第11号 2008・4

東側に隣接する山が新たに管理エリアに加わりました



なな山緑地の東側の山(約0.7ha)を多摩市が昨年12月に取得しました。2月25日に市と当会によって境界線の確認が行われ、正式にこのエリアの保全・管理をなな山緑地の会が担当することになりました。

3月9日の活動日に参加者全員でこのエリアに入り、現状を確認しました。この山は長い間、人の手が入ってないので、倒木・枯木がいたるところにあり、またアズマネザサが伸びて人の背丈よりも高くなっている有様です。いわば山が仮死状態に陥っている状況です。

これから、私たちの手でこれまでのなな山緑地

のように緑豊かで希少植物が育ち、小鳥、小動物、昆虫が生息する美しい里山の姿を取り戻すために保全・管理の活動を実施していきます。近い将来、さらに東隣の山(約1.3ha)も私たちの管理エリアになる計画があるようです。私たちの力が大いに期待されています。これからますます力を蓄えて取り組んでいかなければなりません。



(写真) 上 = 計画図、下左 = 市と境界の確認、下右 = 枯木・倒木が多い

「多摩エコフェスタ08」に参加しました

3月22日と23日、パルテノン多摩・市民ギャラリーにて、「多摩エコフェスタ2008」(環境展と発表会)が開催されました。テーマは「未来の子どもに残せる環境」。世界の視点から多摩の視点から、環境を考えてみようという趣旨のイベントです。環境講座が開かれると同時に、ギャラリー内に多摩市内で活動している各団体の活動状況などをPRする展示が行われました。また、23日には小ホールで「EARTH VISION 地球環境映像祭」の映画上映会が行われました。「ホワイトプラネット」など見ごたえのある作品が上映されました。



なな山緑地の会は展示の部に参加しました。森木会をはじめとする各団体と並んだ壁面には、子どもたちがなな山でカブトムシの幼虫採りやハシゴ登りで楽しく遊んでいる写真パネル、卓上にはなな山の木で作られた、自動車、列車、ヤジロベエ、ドングリのネックレスなどを展示しました。会場には沢山の方が来て熱心に展示を見ていました(写真右)。初日には渡辺市長がなな山緑地の会のコーナーに来られ展示を楽しそうに見ておられました(写真左)。



初日には渡辺市長がなな山緑地の会のコーナーに来られ展示を楽しそうに見ておられました(写真左)。

3月末の「なな山」は、春の息吹を十二分に感じさせてくれる。

道路際や隣家に近い日当たりのよい斜面はタチツボスミレが花盛りだ。個体差なのか、別種なのか濃い紫もあれば、白いもある。まるですみれのジュータンのような。白い大きな花を付けるヒゴスミレ(写真右)のいく株かが、花芽を伸ばし僅かに開きかけている。足元のシュンラン(写真左)はたくさんの花を見せているが、そろそろ峠を過ぎた頃か。



ヤブレガサが笠をすぼめた形で立ち上がり、エビネの花芽に見とれ、イチヤクソウの花芽に心躍らせ、思わず見上げたら、梢に広がるヤマザクラの花が目飛び込んできた。あそこも、ここも、首が痛くなるほど見回すと、ヤマザクラもかなり開いていた。この山の梢をうす紅色に染めているのはほとんどヤマザクラだ。周囲の木々でやや黄色味を帯びているのは、イヌシデ、クマシデのようだ。

新しいエリアに黄色の花、キブシ(写真右下)を一株見つけて嬉しくなった。この山の大半を占めるコナラは、少し、もやった感じに変化し始めている。そろそろ芽吹きだろう。昨年秋に落ちた大量のコナラのドングリは、山全域で凄い勢いで殻を破り、10cm以上も直根を延ばしている。僅かに双葉を伸ばしたものも何箇所かにある。にぎやかになりそうだ。



前回倒したコナラの大木は、谷に架かる橋のように倒れている。近隣のSさんの子どもたちは、これがすっかり気に入ったようだ。この日も、両親と遊びに来て倒木の上にもたがり、ずうっと渡っていった。「モノレール」と子どもが名づけた遊びだ。「こういうものを残してくださるといいのですが...」とお母さん。だが作業を終えてこの場所を通ったら、あれあれ!「モノレール」はなくなっていた。残ったのは、太い丸太が玉切りされて、ごろごろころがっている。多分、子どもたちはがっかりするだろうが、きっとまた新しい遊びを発見するだろう。



こういう雑木林は、僅か数十年前まで、里人の暮らしの中で維持されていた。その後は放置されて今につながって入る。私たちは、この山をこれからも永遠に存続させるために、小さな中継ぎをしているにすぎない。僅かずつでもつないでゆくことで未来につながって行くのだ。

そのためにも、多くの人々、多くの子どもたちにこの山に入ってもらって、五感を活かした自然体験を繰り返して欲しいと心から思っている。さあ、みんな、山に入ろう! 山で遊ぼう!

広げよう会員の和

リレー随筆(11)

カメ達となな山緑地

風間裕子

クサガメという種類のカメを、自宅の庭で飼い始めて2年弱。親ガメが33匹、子ガメが約80匹、親子合わせるともう100匹以上という我が家は、ご近所でも評判の(?)カメ好き一家です。3月、大きな専用のケースで冬眠していたカメ達を、ぼちぼち春を感じてもらおうと水中の土の中から起し始めます。そして4月にかけて、すべてのカメ達を目覚めさせ、冬眠中消耗した体力を付けてもらう為に沢山の栄養のある餌を与えます。餌の種類は生きた餌と固形の餌。我が家で与える生餌は数種類。魚やザリガニ、昆虫の幼虫、そしてミズなど...。私の住む八王子は、都心部に比べると自然豊かな土地です。けれども、その自然はこの数十年で相当減少しました。畑や里山があった時代はどこでもすぐに生餌を取ることができました。しかし、今はそんな場所がなかなか見当たらず、ミズをインターネットの通信販売で購入している次第です。時々、なな山の敷地の端のほうで穴を掘り、なにか作業をしているのは、実はミズを採っています。なな山は里山や雑木林などの勉強ができる場所であり、そして大切な生餌が沢山ある場所です。カメ達はなな山から餌をもらい、それを食べて元気に成長しています。当たり前のように採れていたミズや昆虫がいるこの環境を、皆さんと一緒に大切に保存していければと思っています。水場の方も充実させていくことができると、とてもいいですね。



さて次は、お世話になっている賛助会員の梶谷さんに書いていただきたいと思います。どうぞよろしく。

(写真) = クサガメ、ネギ畑をお散歩中です。

スギナ トクサ科 *Equisetum arvense* L.

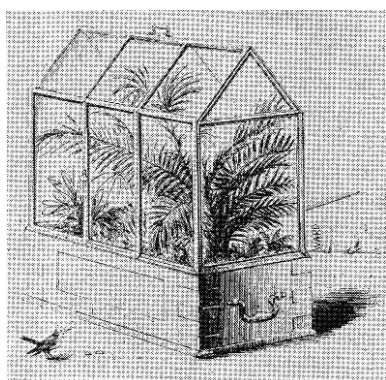
春の日差しに植物が動き出す 3 月末、なな山でも広場の周りにツクシが出てきた。ツクシは、春の暖かさと同じように人の気持ちをほぐしてくれる愛らしい植物だ。しかしスギナの根は深く、畑ではやっかいもの。ツクシとスギナ(写真右)は一心同体で根っこで繋がりが、スギナは栄養茎、ツクシは孢子茎とその役割を分担している。ツクシの袴は葉が退化したものだ。孢子で繁殖するのでシダ植物に分類される。葉の形が杉の樹形に似ているから「杉菜」。ツクシ、スギナともに食べられる。



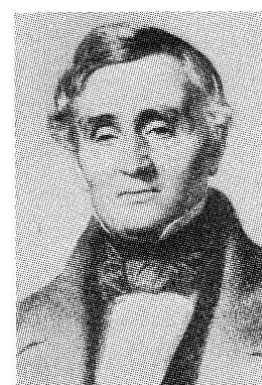
ツクシでは満腹にはならないが、古来より人間は食用・薬用になる植物を大変苦労して集めていた。ヨーロッパのプラントハンターたちは世界各地で採集した植物をヨーロッパへ運ぶのに、大変な苦労をしていた。気候、土壌の違いから種を播いても成長しないことが多かったため、種ではなく、根、球根を船で運んでいた。船は大方が喜望峰をまわったため、生き延びることができる植物は約 5%だったという。

ところが、ロンドンの医師ナサニエル・ウォード(1791-1886)(写真右下)によって画期的な方法が発見された。彼は植物だけではなく、昆虫にも興味をもっていた。1829 年、彼は蝶のサナギを自宅で育てようと、ビンに少量の土を入れ、その中にサナギを埋めて蓋をしておいた。密閉した状態だった。数日後、彼はビンの中の土からシダと草が出ているのを発見した。それにヒントを得て、密閉したガラス箱の中にシダや植物を植え込み、5-6 週間に 1 回水をやった。それだけで植物は生き続けることができた。土に充分水を含ませておけば、昼間の日光で蒸発した水蒸気は、ガラス面や植物の葉にたまり、夜になると、露のように土に落ちる。それを繰り返すので、水分はほとんど失われないということを発見した。

この箱を「ウォードの箱」「ウォードのガラス箱」(写真左)と呼び、その後ウォードの箱によってヨーロッパに送



られる植物の 95% が生きてままた到着するようになった。この箱で、ブラジルのキナノキがインドに持ち込まれ、マリアの特効薬となり、また中国の茶樹をインドへ移植させることにも成功した。



ビクトリア朝時代に、このガラス箱を利用してシダ植物を室内で栽培することが大流行した。現在は「テラリウム」という室内観賞用のガラス(アクリル)容器が販売されている。畑ではやっかいものスギナもツクシも観賞用に仕立てたら、人の心を癒す特効薬になるかもしれない。

なな山で育ったクヌギが他の山に植えられました

なな山の畑に蒔かれたクヌギのドングリ、小さかった苗が背丈90センチになり、移植先を探していましたが2ヶ所から声がかかりました。

【東寺方のヒノキの森の斜面 8本】

ここは相田さんが6年生の有志と森の整備をしていたところで、一部斜面に土砂崩壊止めにシガラを組んだところがあり、今回その場所に苗木を植えました。



この学校にはクヌギはなく、卒業記念を兼ねて3月13日に8人の6年生によって植えられました。ここは日照不足が気になる場所ですがきちっと植えられたので育ってくれるのを期待しています。(写真右)

【永山駅前の雑木林(さえずりの森)の駅前斜面 9本】

ここでは、3月15日「さえずりの森」のメンバーによってバス通り沿いの斜面に丁寧に植えられました。(写真左)それぞれの苗に番号を振り、見守り担当を決めて、元気に育つように見守っていくそうです。

2007・12・23(日)雨のち晴れ 気温11

雨にも負けず、9時には4名。今年最後のトン汁、美味しかった。焼きシイタケも最高。参加者12人。
「作業」 落葉集め、伐倒木の片付け、年越しの準備(倉庫整理・門松作りなど)トン汁、炭火での焼きシイタケ、焼きネギ、ギンナン、ホウバ味噌などのパーティーの準備。緑地沿いの道路の清掃。
「観察」 見つけた植物 = チジミザサ、ヒヨドリジョウゴ(写真右)、アオツツラ、マンリョウ。シイタケがまた沢山採れた(すぐに炭火焼にして賞味される)。鳥の羽 = ハトがタカか何かに襲われたのか羽が一面に散乱していた。



2008・1・13(日)曇りのち晴れ 気温4

山始めの神事を行い初仕事！沢山の会員が集まり作業した。参加者17人。
「作業」 タマネギの苗の植え付け、落葉集め、落葉囲いの補修、伐倒(5~6本)。

2008・1・27(日)晴れ 気温4

寒~い日。でも、沢山の会員が集まる。新落ち葉囲いが完成、くず掃きが進む。参加者18人。
「作業」 くず掃き、東谷奥に新しい落ち葉囲いの作成(コンパネ製3連)、伐倒3,4本、材・杭作成。
「観察」 見つけた植物 = コナラの発芽、タイワンホトギスの花殻、ジャロヒゲの実、カシワバハグマの花殻、マンリョウ(白)、ヤクシソウの花殻。鳥 = ジョウビタキの雌が物置の上に止まっていた。



寒い朝、作業の前に準備体操をした(写真右)。近所のご一家4人が来て、子供たちは落ち葉囲いをプールにして大はしゃぎだった。

2008・2・10(日)晴れ 気温3

昨日降り続いた雪が9cm積もる。でも、朝から参加者が。参加者7人。
「作業」 ヒノキ・スギの皮むき、コナラの伐採3本、ホダ木が20本できる、ヒサカキの伐採、手洗いの修理。
「観察」 見つけた植物 = コブシの花芽、コナラの瘤(病気?)。前日の大雪がすっかり晴れたが、かなり積雪があるので、作業できないと思い欠席した人もあったが、朝から数人が集まりそれぞれやる気満々。きれいな雪景色(写真右)の中で楽しく作業した。



2008・2・24(日)晴れ 気温4

晴れているが風が強く寒い。畑を拡げる。午後は農業ボランティアがくず掃きに来る。参加者16人。
「作業」 ネギ・ブロッコリーの収穫、畑の拡張。伐採(サクラ、コナラ)くず掃き、西のソダ置場の修理、入り口のコナラの枝払い。**「観察」** 咲いていた花 = アセビ、ウメ(まだ、ほんの少し)。府中の農家の中村さん(住崎さんのお仲人さん)と府中市が募集した農業ボランティア6名、市の職員1名がくず掃きに来た。

2008・3・9(日)晴れ 気温12

いよいよ東の山に入り境界の確認、ジャガイモの植え付け。参加者18人。
「作業」 東の山の境界の確認、ジャガイモの植え付け、東の山沿いの笹刈り、東の山の枯れマツの伐倒、東谷の大きなコナラの伐採。**「観察」** 見つけた植物 = ウメ(満開)、オモトの実、カンスゲ、シュンラン等。東の山の境界が市から示され我々の管理テリトリーになった。参加者全員で確認する(写真左)。倒木多く、笹は人の背より高く管理は大変だが、どんな植物があるのか未知の山であり、やりがいも楽しみもあるフィールドである。



なな山だより 第11号
 発行 行
 発行責任者
 住所
 ホームページ
 編集委員

平成20年4月13日発行
 なな山緑地の会
 高木直樹
 多摩市和田 1394 13
 http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/
 鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

東の山が当会の活動エリアになりました。また近い将来更にその先の山も活動エリアになる計画もあるようです。私たちの活動で更に大きな森を管理していくことになります。新年度を迎え、新たな気持ちで取り組みましょう。 K